

# 先天性股関節脱臼は 乳児期に見つけよう！



以下のポイントがあれば早急に  
小児整形外科を受診してください

- ・股関節が硬い(開きにくい)
- ・股関節のシワに左右差があり深い
- ・脚の長さが違う
- ・歩き方がおかしい(歩行開始後)



## 先天性股関節脱臼

先天性股関節脱臼は近年、發育性股関節形成不全と呼ばれる傾向にあります。その理由は周産期および出生後の發育過程で脱臼が生じることがわかってきたからです。

先天性股関節脱臼の発生率は出産1000人に対して1~3人の割合(0.1~0.3%)で、男女比は1:5~9と女子に多く、また初産児に多い傾向にあります。原因は遺伝的要素が考えられます。

先天性股関節脱臼を放置すると歩き方が悪くなり、早期に股関節痛(変形性股関節症)が出現し日常生活に支障が生じます。

④レントゲン写真.



## 治療

月齢と体重、脱臼の程度で以下の治療方法を選択します

- ①リーメンビューゲル装具(4ヶ月装着)



- ②牽引治療(牽引後に装具を3.5ヶ月装着)

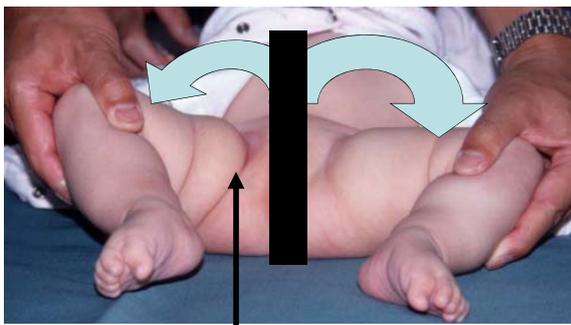


- ③手術

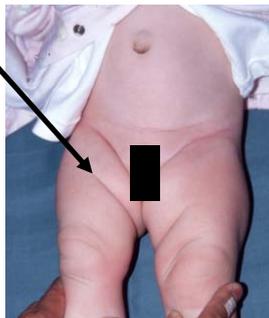


## 診断

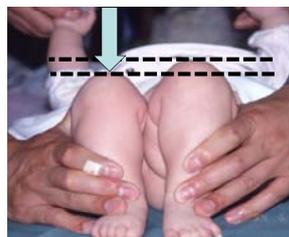
- ①右股関節が硬い(開きにくい)



- ②股関節のシワに左右差があり深い



- ③脚の長さが違う  
膝を曲げて比べる



## 歩行開始後の注意点

歩行開始後、歩き方が気になる場合は必ず整形外科を受診してください。極稀に股関節脱臼の場合があります。

親族に股関節脱臼の方がいる  
場合も、是非 **整形外科**を  
受診して下さい！